

令和5年7月定例会会議録

(令和5年7月24日)

八代市教育委員会

八代市教育委員会 7 月定例会会議録

- 【開催日】 令和5年7月24日（月）
- 【場所】 八代市役所本庁4階 403会議室
- 【出席者】 北岡 博 教育長
渡邊 裕一 教育委員
奥村 留美子 教育委員
早田 蛍 教育委員
澤村 互寛 教育委員
- 【出席職員】 中 勇二 教育部長
松川 由美 教育部次長
田中 智樹 教育部次長
下津 恵美 教育政策課長
田北 佳一郎 学校教育課長
稲本 健一 教育部理事兼教育施設課長
高崎 博文 生涯学習課長
櫻井 幸枝 教育サポートセンター所長
上角 愛美子 博物館未来の森ミュージアム副館長
三浦 稔継 学校教育課審議員
松本 豊 教育政策課長補佐
中松 大輔 教育政策課主幹兼学校給食係長
- 【事務局】 萩本 誠子 教育政策課教育政策係長
浦本 美代子 教育政策課参事

（審議事項）

<協議案件>

① 協議第1号 令和5年度教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価の実施について

② 協議第2号 八代市立幼稚園再編基本方針（案）について

<報告案件>

① 報告第12号 八代市議会令和5年6月定例会について

② 報告第13号 公益財団法人八代市学校給食会経営状況報告について

1. 開会 (午後2時00分 開会)
2. 会議録の承認 令和5年3月定例会
3. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

4. 議題

〈協議第1号〉 令和5年度教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価の実施について

下津教育政策課長 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、第3期八代市教育振興基本計画の基本方針の進捗状況について点検・評価を行うものである。第3期教育振興基本計画の評価が始まる今年度から、教育振興基本計画の体系に沿った進捗管理を行うため、18の基本方針ごとに成果指標や主な施策について評価する。なお、今回より文化振興課所管分も評価対象とする。実施方法は、8月定例会において、各課より説明を行い、各委員から意見をいただく。1基本方針当たり、説明5分、審議10分、合計15分を目安とする。ただし、主な施策数が多い4つの基本方針については20分、全課かい対象の基本方針18は30分を目安とする。9月上旬から10月下旬までに外部評価を2回実施し、11月定例会で報告書について審議をお願いする。

外部評価に諮る基本方針の数と選定方法については、評価期間の令和5年度から令和8年度に、全ての基本方針を一巡するものとする。令和5年度から令和7年度については、毎年度の評価対象は6基本方針とし、最終年度の令和8年度は外部委員の意向を踏まえて選定したいと考える。

このような内容で実施してよいか協議をお願いする。

早田教育委員 8月定例会の日程について確認したい。

下津教育政策課長 8月30日に開催する。

〈協議第2号〉 八代市立幼稚園再編基本方針（案）について

田北学校教育課長 八代市立幼稚園再編基本方針（案）について、資料により説明

奥村教育委員 令和3年度に諮問がなされ、令和4年2月に答申があったものの令和4年度はなかなか着手できず、令和5年度によいよ取り組むということであるが、この間にも子供たちの数は減少し、幼稚園離れが進む中で、今回の再編に向けた取組は大変重要な仕事になると感じている。このような事業を学校教育課が中心となることについて、学校教育課は学習指導、教員の資質向上、不登校対策、ICT教育などこれまでにない煩雑さの中で業務をされている。本市には教育の政策を管轄する教育政策課があるので、このような仕事の中心は教育政策課で行うことはできないのか。あくまでも学校教育課は、専門的な意見や実態を述べるなど、そんな漠然とした

ことを感じた。それだけ大変な仕事であると感じている。

再編に向けた基本的な考え方の目指す園の規模については、令和4年2月の答申の際にも数の問題をどうしようかと、ぎりぎりの望ましい数が出されたと思う。単純に6園あるのを2園ずつ合わせるなど、シンプルな反応があったかと思うが、それすら難しい中で、令和5年度版の再編とは、具体的にどのようなことなのだろうかと感じた。現在、考えられていることがあれば確定でない部分でお話しいただきたい。

次に、再編による取組のなかで、園の職員体制の再構築と幼児教育センター的機能とは、具体的にどのような組織要員でいくのか。幼・保等と小・中連携のつながりは、20年近く大事なものだということで、当初は各学校、園の独自の取組を基に、だんだん八代流はこういうものだと大体の体制になってきていると思う。現在の学校現場、幼稚園現場では、いっぱいいっぱい交流活动が行われていると思う。それをさらに再構築し、センター機能を持たせるというのは、どのようなことが考えられるのだろうか。他市町村の例で八代市が活用したいというものがあって案が生まれたのか、お話ししたい。

また、認定こども園について、前回の審議会で、この状態は実施困難ということで、山鹿市の例を挙げて説明をされたかと思う。今回の案で、八代市独自と言っていいのか、関係部局と連携しての認定こども園化を含めて検討するということであるが、理屈だけで言うと、10年も20年も前から国から望ましい方向性が出されているが、費用の問題、施設の問題で認定こども園の実現が難しいと言われて久しい項目であると思うが、今回新たに出てきているので、認定こども園についても、どのような意見が取り交わされているのかお話ししたい。

田北学校教育課長

学校教育課としては幼稚園に特化した視点で始まったが、保育所も含め、就学前教育という視点で全市的に考えていく必要があるのではないかとこのころから、こども未来課からも幼稚園の今後はどうなるのかと、お互いの方向性を出し合いながら進めている。幼稚園は学校教育課が、保育所はこども未来課が、という縦割り行政で進めるのではなく、全市的な視点で考える必要があるのではないかとこのころから出てきたため、当初の予定よりも時間を要した。数についても、当初は6園あるから2園ずつ合わせたら良いのではということもあったが、具体的には今後、基本計画を策定することになる。パブリックコメントやアンケート調査により、市民の方々の思いや市長部局と連携しながら、より具体的に検討していく必要がある。何がベストなのか、紙面上だけで私たち

が考えるのは難しいので、最終的な数がどうなのかということも含めて、総合的に判断していくこととなる。

園の職員体制について、一番課題となっているのが、副園長先生が担任を持ちながら、事務的な仕事もされているという点である。副園長先生が独立の職員体制ではないため、難しい壁があると聞いている。幼稚園の数の整理が付くと、職員数は現状のままなので、副園長先生が担任を持たずに他の業務ができる体制ができるとよいと考える。財政的な部分があるので、検討の余地があるのではないかと考える。

センター機能については、特別支援教育的な部分について、幼稚園の先生方が専門的に学び、それを情報提供できたらよいのではないかと考える。保育所等で入所が難しい配慮が必要な子供さんが、幼稚園に入園するということが現状でもある。先生方には、通信講座などで積極的に資格を取られる方もかなり出てきている。このような部分で、選ばれる幼稚園という意識を先生方も持たれているのが伺える。

認定こども園については、千丁幼稚園と保育園が隣同士で並んでいることもあり、有効的ではないかという話があったところであるが、市民の方々の意見も広く取り入れながら、今後検討していきたいと考える。

中教育部長

この取組については、学校教育課で担当してもらっており、今回の基本方針（案）について、再編に向けた基本的考え方の中で、再編による取組を考えるのが最も重要であると思う。再編した幼稚園で何をしていくのか、何ができるのかを考えることは、まさに学校教育課の仕事であると思う。拡大路線ではなく、縮小していくときに何をベースに考えるかという点で、子供ファーストの視点でということになるが、これに関しては学校教育課がスペシャリストと考える。これに加えて、教育政策課の仕事、教育施設課の仕事を含めて計画を作っていく。これまでも学校関係については、学校教育課が所管していたところである。今後、学校関係についても着手するが、この時、同じ形であるかというところと厳しい部分があるので、組織としてどこが所管するかということを含めて、来年度の準備をしているところである。幼稚園については、学校教育課で所管するという現状である。

職員体制の再構築については、現場の先生方と話をしているが、単純に1園に現在の倍の職員数を充実させていろいろな取組をしたいと話している。そのうち、どこまでが必要でどの部分を充実させるかを含めて、体制について考えていきたい。今年度、幼稚園だけではなく公立の保育園、私立の保育園も含めて就学前教育の連携という県の事業があり、計画している。就学前教育というところで市一体としての事業がある。これについても取り組みながら、市全体の連携に取り

組みたいと考える。公立の幼稚園が受け持つべきものの洗い出しをしながら、体制作りをしていきたい。審議会の答申時の認定こども園についての触れ方が、現在の幼稚園をそのまま残すために、幼稚園ではない保育部分まで手を広げる必要があるかどうかということを知っている。八代市の場合は、保育所の待機児童がいない状態なので、幼稚園側が保育部分を作って、囲い込むような形はないだろうというところでの触れ方であり、あまり積極的ではなかった。今回、前向きに認定こども園化を含め検討することを記載しているが、いくつかの公立幼稚園と公立保育所を集めた形を検討してみるべきではないか、全体での数を減らすという点で考えてみるべきではないかというところでの方針に認定こども園化を含めようということである。審議会答申時は、今ある幼稚園側から手を広げるという考えであったが、今回は一緒になって考えようという形となっており、位置づけが少し異なっている。

澤村教育委員

先ほど、ここ3年ほど幼稚園教育へのニーズが一定数あると説明があったが、幼稚園教育へのニーズはどのようなものかをしっかり掴むことが大事であると思う。主体は子供であるので、その保護者がどのようなニーズを持っているかをしっかり幅広く、深く把握することが必要であると思う。パブリックコメントやアンケートなどの仕方もしっかり検討し、うまく吸い取ったうえで、どのように再編していくかを検討すべきであると感じた。保護者や地域の方々の考えと行政側の方針にギャップが出ると、後々いろいろな問題を残すことになるので、まずはニーズを把握したい。

奥村教育委員

就学前の子供たちを育てている若いお父さん、お母さん方が安心して働くために、我が子を安心して預けられるところがあるということは貴重なことと思う。その親御さんたちの気持ちを聞く手段としてパブリックコメントがあるが、パブリックコメントは限定的な部分が大きいのではないかと。また、アンケートについては、行政側の提案がとても魅力的なものであれば賛同される方も多いと思うが、思いもよらない意見が出ることもあるので、意見聴取の在り方をどうするかということも検討が必要かと思う。限られた期間であるが、丁寧に丁寧に意見を拾い集めていただけると良いと思う。

平成14年、15年頃、就学前教育をどうするかという「輝け熊本の肥後っ子」という冊子が出された。2年程かけて就学前教育を保育所と幼稚園、厚労省と文科省の垣根を越えて取り組みましょうという提案がされた。実際、学校に入学する子供たちの半数以上が保育園からであり、ほとんどが私立保育園からであった。そのような実状を見て、同じ若い

子供を育てるのだから、国レベルでそのような検討がなされるのはいいなと切に思ったときがあったが、どうしても行政の壁を取り払うことはできなかったのだろうと感じている。先ほど、部長から話のあった市一体としての基盤には、行政の垣根を取り払うではなく、乗り越えて八代独自の取組を検討していただくのだろうという強い希望を感じた。

最後に、私たち教育委員は紙に書かれたものでしか考えたり意見を言ったりする判断がない。今回の資料は今朝、出掛けにポストに届いていたので、慌てて目を通してきた。これだけの資料を作っていただいているので、敬意としてせめて目を通さないといけないと思っている。何を聞いていいかわからないときもあるが、何も尋ねないのも失礼だし、知らないまま何もかも質問するのも失礼だと思いながら、毎回素朴なお尋ねであるが質問をさせてもらっている。まずは資料を理解したい、これから子供たちがどうなるのかという点でお尋ねしていることを皆さんと共有し、月1回のわずかな時間の話し合いで何もかもが決まるわけでは決してないと思っているが、水面下での担当課の御苦勞をもの凄く感じているので、この場で精一杯質問させていただけることを幸せに思っている。

中教育部長

資料の送付が遅くなったことは申し訳なく思う。この議題については、きょうが正式なテーブルに載るスタートである。この後、対外的に出す前に、市長を含んだ会議である庁議に報告するが、必要な部分については、まだ修正ができる。単に数だけの話ではなく、どのような八代の幼稚園、明るい未来が見通せるような知恵を詰め込むことが足りなかったのではないかと思っている。八代市の幼稚園が目指すべきことについての御意見をいただけるとありがたい。

早田教育委員

幼稚園と保育園世代の子供を持つ親として手を挙げさせていただいた。私自身の話をすると、周りに市内の幼稚園に預けている知人がいないので、どのようなお父さん、お母さんが幼稚園に子供を預けているのかが市内では想像がつかないが、以前、宮崎県に住んでいたときは幼稚園に預けていた。当時は主婦だったので幼稚園という選択になったが、親も親戚もいない中での子育てだったので、預ける時間を延ばしたいときにも対応できる幼稚園型認定こども園を選んだ。その後、夫の転勤で熊本市に引っ越し、主婦の状態で保育園、幼稚園探しを始めたが、保育園は全く空いておらず待機児童になると言われた。働きたいと思っていたが、保育園が見つからなければ働けない。幼稚園は空いていると言われたので、主婦であれば幼稚園に預けられるんだらうと感じた。実家が八代市で近かったので、子供たちと八代市に帰り、保育園を

探したところ、すぐ預けられるということだったので、子供たちを保育園に預けて仕事を始めた。こういったことから、保育園という選択が多いのではないかと感じている。国の政策でも子育て支援が充実してきているし、配偶者控除も縮小の方向で動いており、物価も高騰している中でお母さんも働かなければならず、県外から来られた転勤族のお母さんも働いている方が多く、同じ保育園にもたくさんいらっしゃる。また、コロナの後、在宅という働き方が広がり、子供がいても働く選択肢がとて増えたと感じている。その中で、幼稚園という選択が難しくなっていると感じる。八代市の現状を見ても、親の状況に即して幼稚園に預ける家庭が減少しているのではないかと感じている。適正化、再編というのは時代の流れとともに仕方がないことではないかと感じている。

幼稚園に幼児教育センターという機能があったことは知らなかった。どのような機関になるのかお尋ねしたい。

田北学校教育課長

現在の幼稚園、保育園に具体的なセンター機能の部分がそれほどないと思われるので、公立幼稚園が情報発信を担っていくべきではないかと、園長先生方を中心に強く思われている。幼稚園の教師として、積極的にさまざまな研修等に参加しながら勉強されている。特に特別支援教育等については、熊本市ではことばの教室というものに取り組みされているという話も聞いており、園長先生の中には、八代市でも特色のある特別支援教育ができないだろうかという思いを持たれている。センター機能を高める余裕ができるよう、人員配置に余裕が出てほしいと願っている。また、これを機に市長部局ともより連携を深めたい。

幼保、小中連携の中で、地域ごとには中学校区ごとに保育所、幼稚園、小学校、中学校の園長先生、校長先生が中心となって年に数回会議を開かれているところもあるが、中学校区中心での連携になるので、そういった形ではなく、センター機能という別の角度で連携を強化していく必要があると考える。

早田教育委員

幼稚園の先生向けの研修を行うところなのか、子供たちの発達に関する研究を行うところなのか、もう少し具体的に伺いたい。

田北学校教育課長

園の先生が中心となって研修を行うことは難しいと考える。例えば、相談窓口となって、悩みをお持ちの保護者が幼稚園に相談に来られるとか、研修の講師として先生を派遣するなどが考えられるのではないかと。これから保育所と連携しながら、幼稚園としてどのようなことができるのかを考えていきたい。

早田教育委員 こども未来課が発達支援を行っていると思うが、そのような業務を幼稚園が担うということだろうか。

中教育部長 障がい児への福祉的アプローチとしては、これまでどおり市長部局が行うが、そのような子供を預かるうえでどのような保育や教育を行うかということに関して、公立の保育園、幼稚園が手をかけてできるであろうということを生かして取り組んだらどうかということである。受け入れる側としての体制作りを就学前教育のところと連携して行っていくということであり、福祉や医療関係の取組とは別のものである。

幼児教育センター的役割というのは、国において地方公共団体がそのような役割を担うことが期待されており、それについて八代市でどういうことができるかの検討も含め取り組んでいく。専門知識がないとできないものは急にできない。職員の数をうまい具合に増やさないといけないし、子供を保育するだけではなく、市長部局との就学前教育の連携が業務として今後は発生するということである。

早田教育委員 幼児教育センターの役割の部分で、発達支援があるということによいか。

中教育部長 これまでやっていなかったことに取り組むということ、再編することによって、新たな取組として打ち出していきたい。

渡邊教育委員 前回の予備提案で多くの意見を述べたが、おおむね反映され、盛り込まれていることをありがたく思う。幼稚園に5%前後の一定ニーズがあることが分かり、必要感をもって再編していかなければならないと思っている。

資料7ページの5. 再編に向けた基本的考え方というのが保護者、地域の方が気になることではないかと思って見ている。(1)が目指す園の規模となっている。つまり、再編に向けた考え方の一番目は、規模をどうかしようということなんだなと保護者は思うと思う。これが肝ではあるが、その前に、再編することによって、こんな幼稚園、こんな幼稚園教育を目指すんだということ、目指す幼稚園教育の姿は3ページ記載されているが、これは現状目指している幼稚園だと理解している。3ページにあるような幼稚園教育をしたいんだが、子供たちが減ってきているので何とかしたいんだという流れだと思う。何が気になっているかというと、例えば泉地区で小・中学校の再編をしたときは、児童数が少ないから統合しますということではなく、統合したことによって新たなプラスアルファの部分「小中一貫」が生まれた。幼稚園につ

いては、再編することによる新たな幼稚園教育像というのがここでは見えてこない。前と同じものを大きな規模でするんだということになる。新たな幼稚園のグランドデザインがある程度分かったうえで、そのためには規模をこうしたい、再編による取組をこうしたいというふうに持っていくのがいいのではないかと思って見ていた。

また、表に出ていく文書なので、記述面で気になった点がある。いくつかある。例えば1ページ目に「幼児教育センター」とあるが、7ページには「幼児教育センター的機能」とある。「センター機能」なのか、「センター的機能」なのかは統一してもらいたい。1ページ(2) 答申を受けての取組とあるが、このまま読んでいくと答申を受けて新たに記載の取組が行われたように見える。継続した取組や拡充充実した取組があると思うので、その違いがここでは見えない。7ページのスケジュールの図であるが、5、検討事項①2園合同保育に向けてとあり、2園を統合する再編なのかと誤解される恐れがあるので、文言を変えたほうが良いと思う。②園名、園歌とあるが、いきなり出てきているのが非常に気になる。その前に園の数がいくつになるかであると思う。方針の段階で出すべきものかと思う。こういった点が気になった。回答は不要である。

中教育部長

事務方としてのチェックが荒い状態で申し訳ない。今の時点で出すべき事項、まだ出さない事項をしっかりと整理して見直したいと思う。スケジュールの記載についても検討したい。一番肝の部分の7ページの上段についても、渡邊委員から以前から助言をいただいていた、八代市が取り組む幼稚園教育において、新たな、期待が持てるという部分をしっかりとアピールできるよう、例えば幼児教育センターにしても、何か分かるように提示をしたい。何をやるかという政策的な判断を煮詰めたい。

いくつか御指摘いただいた点について、修正が必要になるかどうかと思うので、次に進める場合はお知らせしたうえで今後進めていきたい。

奥村教育委員

記述面で、1ページの(1)①に「幼稚園教育の良さ」とあるが、ひらがな表記の「よさ」ではないか。なぜなら「よさ」の中には良いか悪いかではなく、個性、特性としてのよさもあるというところで見ている。確認をお願いしたい。また、6ページの(2)③に「意見を出しあい」、「影響し合い」、「育ち合う」と「あう」がひらがなと漢字の表記になっている。

北岡教育長

今いただいた御意見を参考にさせていただき、もう一度事

務局でしっかり精査をして、できた資料を再度確認していただくという作業をして進めていきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

〈報告第12号〉 八代市議会令和5年6月定例会について

中教育部長

6月定例会においては、7人の議員から次の9件の質問があった。資料により説明

① 太田 広則 議員

・他市小学校の校舎外壁落下事故を受けた本市教育施設における外壁点検状況について

② 堀 徹男 議員

・学校の安全管理について

・(仮称)新南部学校給食センター施設整備事業について

③ 大倉 裕一 議員

・坂本町の少子化の現状及び子育て支援策について

④ 谷口 徹 議員

・本市における各種交流広場の活用について

⑤ 中山 諭扶哉 議員

・生成AIの利活用について

(3) 教育への活用

⑥ 橋本 隆一 議員

・不登校児童生徒の状況及び対応について

⑦ 山本 敬晃 議員

・公立保育所及び公立幼稚園の現状と課題について

・市内小・中・特別支援学校における教職員の欠員・休職の状況及び長時間労働の現状について

奥村教育委員

八竜小学校の令和5年度の新入生が0人であったというのは、大変残念に思う。学校地域において、新入生がいないということは、大変がっかりすることである。被災されたご家庭にはそれぞれの御事情やお考えがあるとのことだが、今回4件ともが入学されなかったということは、4件のそれぞれの事情や考え方ばかりなのか。子供を家から学校にどう通わせようかとか、通わせるには距離が遠い、交通が不便であるなど公的に関わる部分あるいは、学校はどんどん小さくなっていくので、同級生4人では少ない、中学校を含めた9年間で4人で過ごすのはなど、1戸の家庭では想像し、対策を考えるにはあまりにも大きなかけ離れた不安や考えがあるのではないか。それぞれの家庭の事情やお考えという記述に、我が家のことだけなのだろうかという点で引っかかった。地域としての今後の坂本の学校としてはどうなのだろうかと思った。

また、不登校の数には、社会全体で関心を持っていただい

ているという安堵感と同時に、増加が止まらない点で、千人比いわゆる出現率で比べたときの八代市の数は本当に大きいという数の実態の共有は、委員会では必要であると感じた。対策として「i-check」が挙げているが、こうしたアンケート調査を行ったり、日常的に先生たちが子供たちを見ながら感じ取ったりするものの、現に学校では荒れる教室が起きている。そういったことを学校レベルですぐに対策はできないが、自分の学校では、アンケート結果から子供はこんな意識でいるとか、昨日、何年何組ではこんなことがあったとか、以前、学校で週に1回、生徒指導朝会という子供を見つめる会というのを行い、解決や対策は出なくていいから、まずは子供の現状を共有しましょうという取組を行っていた。教室では対応できないことも、廊下での通りすがりのかけ言葉で先生たちはあなたを見ているよという発信にもなる。こういった対策としてアンケート結果や外部関係者の利用もあるが、実際学校で行われている身近な愚直なまでの子供たちを見る機会、共有する機会が、働き方改革で時間がない中でも大事にされていると思うが、こういった点を学校訪問の折などに励まし、どのような状況か尋ねてみる必要があるのではないか。一番母体になるところが大事にされなければ、子供たちを見守る網の目がざるのように大きくなるのではないかと思う。調査、アンケート、関係機関はとても大事だと思うが、それらを利活用して、先生たちが自分の学校の自分の子供たちのための週1回の場合などがあると思うが、そういった点を応援していきたい。

〈報告第13号〉 公益財団法人八代市学校給食会経営状況報告について

下津教育政策課長 地方自治法第243条の3第2項の規定により市議会9月定例会において報告する令和4年度事業報告書、令和4年度収支（損益）決算書、令和4年度貸借対照表、令和5年度事業計画書、令和5年度収支（損益）予算書の内容を説明

奥村教育委員 給食費未納の心配はないか。

下津教育政策課長 令和4年度の未納額は45,256円、対象者3名である。収納率は99.9%となっている。

奥村教育委員 事業の内容に児童生徒という言葉が使っており、広報活動には子どもたちという記述になっているのは、特別な理由があるのか。職場体験学習は生徒等とあり、中学生を想像したのだが、ほかにも引率の先生が含まれるのか。

中松教育政策課主 職場体験については、大学生が含まれている。

幹兼学校給食係長

4. 連絡事項
- | | |
|-------|---|
| 教育政策課 | 8月定例会（8/30 終日） |
| 学校教育課 | 八代市中体連の結果について
九州大会壮行会（7/31）
全国大会壮行会（8/10） |
| 教育施設課 | 第三中学校の落雷について（6/29 早朝） |
| 生涯学習課 | アウトドアスクール（7/26～7/28）
夏休み子ども陶芸教室（8/3） |
| 博物館 | 夏の特別展覧会（8/27 まで） |
| 事務局 | 8月臨時会、8月定例会日程確認
（8/2 14：00～、8/30 9：00～）
九州地区市町村教育委員会研修大会
（8/3・4 佐賀市） |
5. 会議録署名委員の指名 渡邊委員・奥村委員
6. 閉会 （午後4時05分 閉会）

令和 年 月 日

署名委員

記録者
